

No. 1665

貴ノ花にプロスポーツ賞

— 国会 —

1月29日国会内大臣室で日本プロスポーツ大賞授賞式が行われました。

「私が宮沢です」と貴ノ花に握手する宮沢総理。我が国のプロスポーツ選手に内閣総理大臣賞が授与されるようになってから今年で25回目。相撲界からは大鵬、千代の富士につづいて貴ノ花が3人目です。初場所後最年少大関に昇進し二代目の貴ノ花を襲名しました。

人気、実力の備わった横綱を目指し努力して欲しいものです。

「樹木医」さん頑張って！

— 東京 —

樹のお医者さん「樹木医」が誕生して約2年、全国で1・2期生150余名が活躍しています。この樹木医制度は林野庁と日本緑化センターが貴重な巨樹、名木を守る技術を育てるため平成3年から実施したもので7年以上の実務経験者から研修・試験の結果選ばれます。樹齢600年、東小岩にある善養寺の「影向の松」は地元の造園業小池さん、樹木医2期生が15年前からお寺の協力もあって診断、手入れをしています。その甲斐あって四方に広がる見事な枝ぶりを見せています。

府中のケヤキ並木には250年を超えた巨樹が並んでいますが、永年の自動車の重み、ガス公害などで痛みがひどくなるばかりです。園芸会社の調査部門に入って14年になる神庭さんも樹木医1期生。府中市の依頼を受けてケヤキの根の調査を行っています。1メートル位掘ると巨樹の根が現れましたが2本とも腐っていました。土の硬度も標準の2倍以上の固さです。これは車と舗装の結果土が固まり根が育成できない状態だからです。ケヤキ並木を再生・保存するために行政と樹木医の一層の協力が必要です。

隅田川に面した隅田公園では兩岸にある1000本のソメイヨシノの手入れの最中です。手入れの指揮を取るのは樹木医の1期生で台東区役所公園課長の小口さん。懐枝のせん定や枯れ枝の整理、施肥がベテラン職員によって手際よく行われています。寒い時期から行う樹木の整備が春に美しい花を咲かせるのです。

木の病気も人と同じように診断・治療がされるようになれば樹木医の活躍が更に期待されることでしょう。